

日本語学習において情意面からのアプローチは可能か

——日本語会話の教育実践を例に——

In the pursuit of efficiency in language learning, is the affective aspect too often overlooked? This paper examines the employment of the affective dimension in language learning.

陳 姿菁

Chen Tzuching

開南大学・副教授 (Taiwan)

要旨

言語学習において、言語形式をいかに効率よく習得するかという側面は重要であるが、学習者が生の人間であることを無視してはならない。本研究はヒューマンスティック・サイクロジーの観点から言語教育の可能性を考え、学習者の情意面を重視し、自己表現させる活動を日本語の会話授業に取り入れ、豊かな感性を育む教育実践を試みた。

教育実践では、それぞれ日本語を専攻とする大学2年次と3年次の会話授業にTAE (Thinking At the Edge) という心理学の手法を用いて、学習者の感性を引き出す授業を行った。TAEはアメリカ在住の哲学者及び臨床心理学者であるユージン・ジェンドリン博士とその夫人が開発した手法である。人間の「からだ」の「感じ」に注意を向け、その「からだ」が感じている既製の言葉では語り得ない複雑な内的感覚を表現可能にする手法である。

現在使用中の教科書の学習項目に関連付け、2年次の会話授業では「恋人に振られた」というテーマで、3年次の授業では「好きなタイプ」というテーマで会話させた。学習者が限られた語彙の中で、自分の複雑な気持ちをどれくらい表現できるのかを観察した。

結果として、TAEの導入の前後の比較から、導入した後はより自分の身体の感覚に従った具体的な内容が産出され、発想の豊かさが観察された。またアンケート調査から、このような活動において、学習者は自身が内的に感じているものを引き出すことができると評価していることも分かった。

キーワード TAE、日本語会話、ヒューマンスティック・サイクロジー、教育実践

はじめに

まず、次のような例文を見てみよう。

A: これは 本ですか。

B: はい、それは 本です。

上記は「これ、それ、あれ」を練習する「文型」として導入された初級の教科書の例文である。しかし、実際の場面を考慮すると、この例文が有用であるとは言えない。日本語の教科書を捲ると、このよ

うな実際ではあまり使われそうもない文型積み上げ式の練習を多く見ることができる。置き換えやドリルの練習という文型重視の教師主導型の教室活動では、実際の使用場面や学習者の表現したい内容があまり考慮されておらず、内容が極端に単純化されたものが多い。また、進学主義の影響もあり、学習者は受身になりやすく、自分で考えたり、意見を述べたりする力が弱い^{めく}ためか、その返答は味気無いワンパターンのものである。

野田 (2012) はこれからの日本語教育のための研究に関して言及する際に、(1) 文法中心主義からの脱却 (2) 純粋な日本語能力以外の重視、という二点を取り上げている。

筆者は同じ立場から、日本語そのものを最終的な学習目的とするのではなく、その日本語を使って何をするのかと言うことに重点を置き、いくつかの活動¹⁾を試みてきた。今回はその一環で実施した既習した語彙を駆使し、自分の繊細な感じを描写するという活動の実践結果、並びにその活動についての学習者のフィードバックについて報告したい。

1 先行研究

教師主導型の教育法と異なり、ヒューマニスティック・サイコロジー (Humanistic Psychology) の教育法では、学習者中心の教育観が提案されている。ヒューマニスティック・サイコロジーを提唱する学者は学習者を実験室のねずみのように扱う教師主導型や教材中心型の教育方法を大きく批判してきた。彼らは動物と人間の学習の本質は区別されるべきだと唱え、学習者の情意面をもっと重視する必要性を訴えている。

縫部 (2001b) は、ヒューマニスティック・サイコロジー (Humanistic Psychology) の視点から語学教育のあり方を論じている。彼によれば、行動主義心理学の学習は機械的な繰り返しによる習慣化を意味するのに対して、HP は人間を中心とした「学ぶ教育」を意味すると述べている。これらの理論を基に、縫部 (2001b) は教材 (認知) と感情 (情意) を統合した指導モデルとして、合流モデルを提示した。また、縫部 (2001a) は、表層・内層・中間層の同心円構造からなる「パーソナリティー層構造理論」を使った日本語指導を提案している。この「パーソナリティー層構造理論」の表層には、教育活動といった外側の環境から働きかけを

受けやすい理解や暗記に関わる知的機能が位置づけられ、いちばん内側にある内層には、自分独自の感じ方・考え方・欲求パターンに関わる情意的機能が位置づけられている。また、表層と内層を結び付けて統合したり、調整したりする機能を持っているのは中間層であり、統合学習の効果はこの中間層に貯えられるとしている。縫部 (2001a:81-85) は、教師主導型の授業では、学習者は人格の表層のみで教材とかかわり、覚えこまれただけの知識が学習の成果となると述べている。一方、表層だけではなく内層をも含めた全人格層で日本語教材に取り組むとき、感性に裏付けされた生きた知識、つまり認識が得られると述べている。また、このような統合的な学習の成果が中間層を強化し、中間層が豊かになるほど学習意欲が高まると述べている。

縫部 (2001b:84) は、教材とのかかわりで適切な感情技法を用いることで内層が開発され、学習者の内的世界に潜在するミーニングノイズ (meaning nodes) が掘り起こされると述べている。ミーニングノイズは、意味の原型として自己の内的世界に生起する感情・関心・意欲・価値・夢・欲求などであると述べている。

そこで、本研究は既習した語彙を使って、ふだん意識していない自分の繊細な感じを描写するという活動を行い、学習者の情意面からアプローチする手法を試みた。

この活動を行うにあたって二つの点に留意しておく必要がある。第一に、文法の正確さよりも、結果の産出に目を向けることである。Skehan (1998) は L2 話者の注意の全体量は一定で、話の流暢さ (fluency)、正確さ (accuracy)、文法構造の複雑さ (complexity) の中のどれか一方に集中すると、他方に注意が向かなくなり犠牲にせざるを得ないという二律背反 (trade-off) の関係について言及している。この理論に従うとすると、文法の正確さに目を向けすぎると、何を言いたいのかという表出の内容に目が行かなくなり、言いたいことがうまく表現できなくなる可能性がある。教師としては、まず学

習者に自分が何を表現したいのかを把握させることが重要である。

次に、自分の感じを掴むことである。これについては、TAE (Thinking At the Edge) という心理手法を応用し、学習者自身の感じをしっかりと掴んだ上で表出させるようにした。

TAE はアメリカ在住の哲学者及び臨床心理家であるユージン・ジェンドリン (Eugene T. Gendlin) と夫人メアリー・ヘンドリクス (Mary Hendricks) が開発した手法である。ジェンドリンは有意義学習を提案したパーソンセンターの巨匠カール・ロジャーズの弟子である。ジェンドリンは実際のカウンセリングの成功例と失敗例の原因を考察した結果、自分の身体が感じたものを具体的に表現できる人が成功につながりやすいということに気づき、フォーカシングという心理手法を開発した。そしてその基礎の上に TAE というステップを夫人と共同で開発した。

TAE は人間の身体の「感じ」に注意を向け、身体は感じているがうまく表現できない感覚を表現可能にするという手法である。TAE の中核となる概念は「フェルトセンス (felt sense)」と呼ばれ、直訳すれば「身体の感じ」「身体感覚」となる。しかし、単なる「身体感覚」や「身体の感じ」という意味だけではなく、自分自身を取り巻くあらゆる状況や物事に対する「身体全体の感受・感覚」といった意味合いである。TAE は3つのパート14のステップから構成されている。

パート1：フェルトセンスから語る

(ステップ1～5)

パート2：側面(実例)からパターンを見つける

(ステップ6～9)

パート3：理論構築(ステップ10～14)

TAE は、得丸(2008)により日本語教育への応用が提唱されて以来、教育現場では作文(陳淑娟2010a、2010b; 佐藤2010; 宇津木2010)、読解(陳姿菁2011a)、会話(陳姿菁2011a、2011b、2012、2013b; 徐孟鈴2012)などさまざまな分

野で応用されてきた。

筆者は日本語を専攻する大学2年生と3年生にそれぞれTAEのパート1を導入し、既習語彙をフル活用して、自分の身体が感じている繊細な感じを描写する活動を試みた。本研究は実践の結果を示しつつ、学習者のフィードバックと照らし合わせ、語学教育における学習者の情意面からのアプローチの可能性について検討する。フィードバックは自由記述式を含んだアンケート調査であり、それをKJ法により分析した。

2 活動の概要

2つのクラスの実施内容²⁾及び概要は以下の通りである。

表1 授業概要

	2年生	3年生
科目	「中級日本語会話」(上) (中級日本語会話・ 前期必修科目)	「高級日本語会話」(下) (上級日本語会話・ 後期必修科目)
学習者	台湾の応用日本語学科 2年生 33名	台湾の応用日本語学科 3年生 53名
時間	週4時間・一学期計18週	週4時間・一学期計18週
進度	『学ぼう日本語初級2』 第21課から第30課	『学ぼう日本語中級』 第11課から第20課
テーマ	恋人に振られた	好きなタイプ
シート	得丸(2008)シート5	得丸(2008)シート5、6

教科や進度が決まっているため、それぞれ教科内容の延長線で行った。「恋人に振られた」は第30課で、「好きなタイプ」は第13課の内容の関連でTAE活動を導入した。変化を見るために、同じテーマで2回行い、1回目は教科内容を参考に指示し、2回目はTAEのパート1のステップが組み込まれているワークシートを使って実施した。

パート1の5つのステップは、総じて言うと「フェルトセンスを表現する文あるいは新鮮な語句を書く」ことによって「フェルトセンス」を掴むこ

とが中心である。「フェルトセンス」は新しい概念なので、ウォーミングアップ³⁾を行った後でTAEのワークシートを導入した。シートのポイントはフェルトセンスを感じながら書くことである。しかしながら、ジェンドリンによると、使用することによっては通常の語義では言いたい事が表しきれないこともあり(表2の枠の部分参照)、「ある文化で一般的な状況を表すには、それにふさわしい言い回しがあるものだ。(中略)しかしながら、この言葉と状況の『身体』での結びつきは、状況が一般的なものではなく、既製の言葉や言い回しでは必要なことを語りえない時にも同じように当てはまるのだ」と述べている⁴⁾。身体は絶えずまわりの環境や状況と相互作用しながら交わりあっており、感じていることの通常という言葉で言い切れない複雑な部分に注意を向けることが重要である。そうすることによって、通常語彙で表そうとするときに「それだけではない、ほかにまだ何かある」という感覚が得られるはずで、その部分を少しずつ言語化していくことによって、感じているものを鮮明に表現することができるようになる。最終的に書いた内容は非論理的で、慣れない言い回しになってしまうかもしれないが、フェルトセンスに合っていることが大事なのである。

得丸(2008)ではパート1のステップとしてシート(シート5、シート6)がまとめられているため、活動の際にはそれを使用した。

2年生の学習者にシート5を使い、「恋人に振られた」ときの気持ちを一文としてまとめるように指示した。3年生の学習者に「好きなタイプ」を思うときの感じについて、シート5を使って一文にまとめた上で、シート6の(4)の欄(表3の枠を参照)を使い、具体的な経験を書かせた。その後2人の会話を編成させた。

表2 シート5

①テーマ *テーマを1つ選び、「この感じ」として持つ。下に事柄をメモする		
②浮かんでくる言葉 *「この感じ」のフェルトセンスを感じながら書く *大事な言葉に下線を引く		
③仮マイセンテンス *フェルトセンスを短い1つの文にする。語も文型も自由に作る *最も大事な言葉に二重線を引く		
④空所のある文 *仮マイセンテンスの二重線の部分を空所にした文を書く *空所に入る言葉をフェルトセンスから引き出す		
キーワードの通常の意味と、フェルトセンス独自の意味を書く		
⑤キーワード1	⑦キーワード2	⑨キーワード3
⑥通常の意味	⑧通常の意味	⑩通常の意味
⑪フェルトセンス 独自の意味	⑫フェルトセンス 独自の意味	⑬フェルトセンス 独自の意味
*大事な言葉に波線を引く		
⑭拡張文を書く *空所に、すべてのキーワードと波線を引いた言葉を並べる		
⑮マイセンテンス=キャッチコピー *フェルトセンスを短い1つの文にする。語も文型も自由に作る		
⑯マイセンテンス=キャッチコピーの補足説明 *ほかの人にもわかるように書く		

表3 シート6

(1) タイトルをつける *最後に決める
(2) マイセンテンスを書く *「感じ」を短い一文で表す シート5 ⑮
(3) マイセンテンスを簡単に説明する *マイセンテンスと経験をつなぐ シート5 ⑮
(4) 「感じ」を感じた具体的経験を書く *細部を生き生きと書く シート5 ⑪⑫⑬
(5) 経験の要点をまとめる *経験とマイセンテンスをつなぐ シート5 ⑯
(6) もう一度、マイセンテンスを書く *少し変形させると、なおよい シート5 ⑮

3 TAE の導入の有無によって産出した結果

3.1 2年生による「恋人に振られた」気持ちの例

例1の2年生の産出はシート5の⑭-⑯の欄の内容をまとめてTAE導入の有無によって比較した例である。

例1

学習者 A		
TAE 導入無		とっても悲しくなったり、自殺したくなるかもしれない
TAE 導入有	拡張文	一種の甘酸っぱくて寒いようで体がしびれるようだ
	MS	甘酸っぱいようで寒いような日
	補足	ある日突然大雨が降ったように冷たくて、雷が体に当たってしびれてしまうようで味が甘くて酸っぱい日

MS：マイセンテンス

補足：マイセンテンスの補足説明（添削無し）（陳姿菁 2012）

陳（2012）の報告によれば、「恋人に振られたとき」の感じについて学習者が産出した表現の量及び質に変化が見られた。

量に関しては、TAE導入なしの教室活動では、字数制限がないにも関わらず、例1のように「とっても悲しくなりました」など短い一文で終わってしまうものが多数を占めた。TAEを導入したあとでは、短い一文の内容から数行に渡る長い文の産出が見られた。

さらに、質に焦点をあてると、以下のような2点があげられる。

- (1) 決まり文句から周知の事物と関連付けるようになった
- (2) 行為から心理状態へ

3.2 3年生による「好きなタイプ」を描写する例

3年生の例には、どのような変化が見られるであろうか。

例2 TAE 導入あり

- 1B： Cさん、今付き合っている人がいるんですか。
- 2C： えと……今はいませんよ。好きなタイプの人は見つけません。
- 3B： Cさんは優しい人です。必ずいい人に出会えますよ。以前好きなタイプの人はいませんか。
- 4C： いますよ。その時は、本当に勇気出ないんです。それで告白しないです。
- 5B： どうして好きですか。
- 6C： 彼はとても優しいけど、高校の時、私は片思いの人と一緒にバスに乗って、彼は私に席を譲って、この行為は紳士と思いやると思います。
- 7B： あの時どう感じですか。
- 8C： 片思い人に出会う時、私の心は80パーセントのチョコレートようにしている少し苦いと甘い気持ちです。Bさん好きな人は出会う時はどう感じですか。
- 9B： 海の中でピンク太陽がきらめいているのは、私に光を照られます。
- 10C： どういう意味ですか。
- 11B： 寒い真っ暗な海の中で心の太陽を見つけるのは、あそこできらめいていった、暖かい感じです。
- 12C： ああ、そっか。わかりました。奥深い感じですね。（添削無し）

TAE導入前では「忙しくて連絡をして、悩みを親身になって聞いてくれます。でも、気が合うは重要です（添削無し）」や「私の好きな人は優しい人、

大らかな人ですよ。まだ些細な事で怒らない人です(添削無し)」というような自分の感情にあまり関連のない外的な事象の描写が多い。TAE 導入後は、外的事象から内面に目に向けるような表現が多く現れるようになった(太字の部分)。

学習者の産出結果に対する分析は以上のようなようであるが、その他に学習者の視点からも今回の試みを分析する必要があると感じたため、活動終了後に学生に対してアンケート調査を行った。

4 調査及び分析方法

学期の終わりごろに、自由記述式の質問を含むアンケート調査を行った。2年生の授業では17部、3年生の授業では37部のアンケートがそれぞれ回収できた。

学習者の授業実践に対する肯定的・否定的評価のほかに、その理由を自由記述方式で答えてもらうようにした。そして、その理由についてKJ法で分析する。KJ法は少数意見を尊重しつつ、同じ主題の雑多な意見を体系的にまとめられることができるため、自由記述方式で得られた学習者の意見をまとめる方法としてこれを利用した。

2年生への質問は「内容、容易性、応用性、継続的に活動に取り入れる可能性、表現力の進歩、フィードバック」⁵⁾ についての内容である。

3年生への質問は「感想、好み、役に立つかどうか、今後使用したい方法、得るものがあるかどうか」⁶⁾ の角度から問いかけたものである。

図1 「恋人に振られた」活動に対する評価(Q1-Q5)
(陳姿菁 2013c)

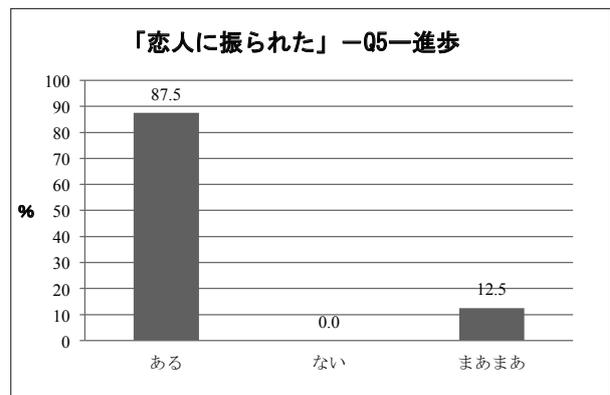
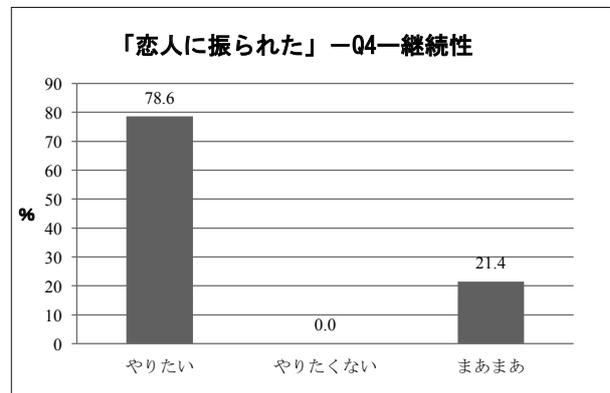
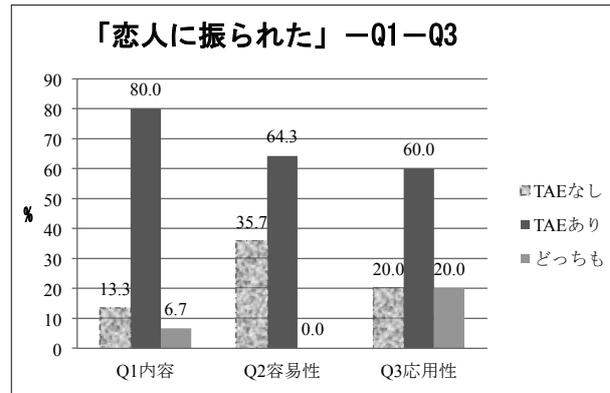


図2 「好きなタイプ」活動に対する評価 (Q2-Q5)

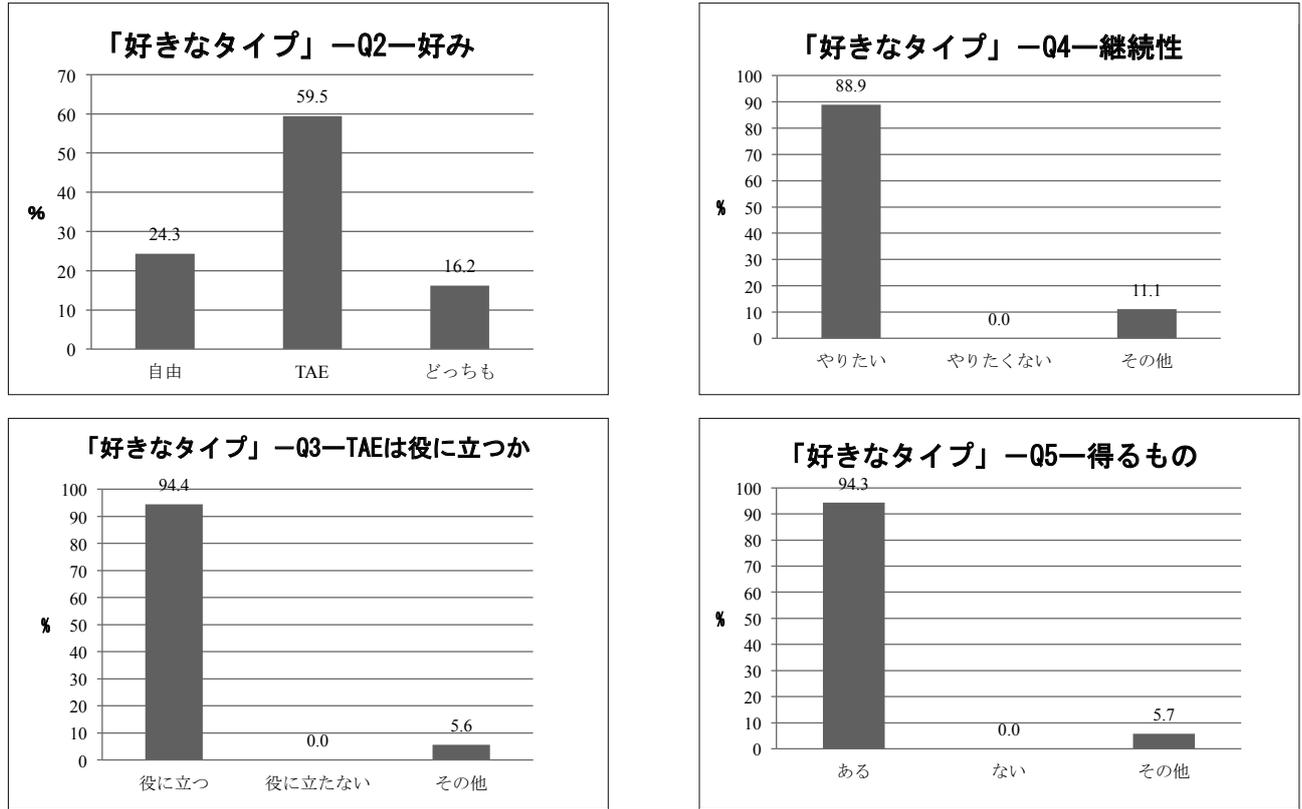
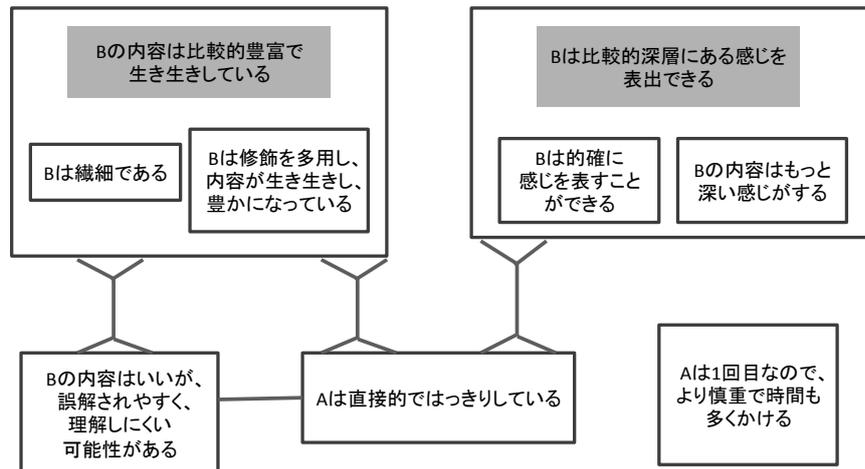
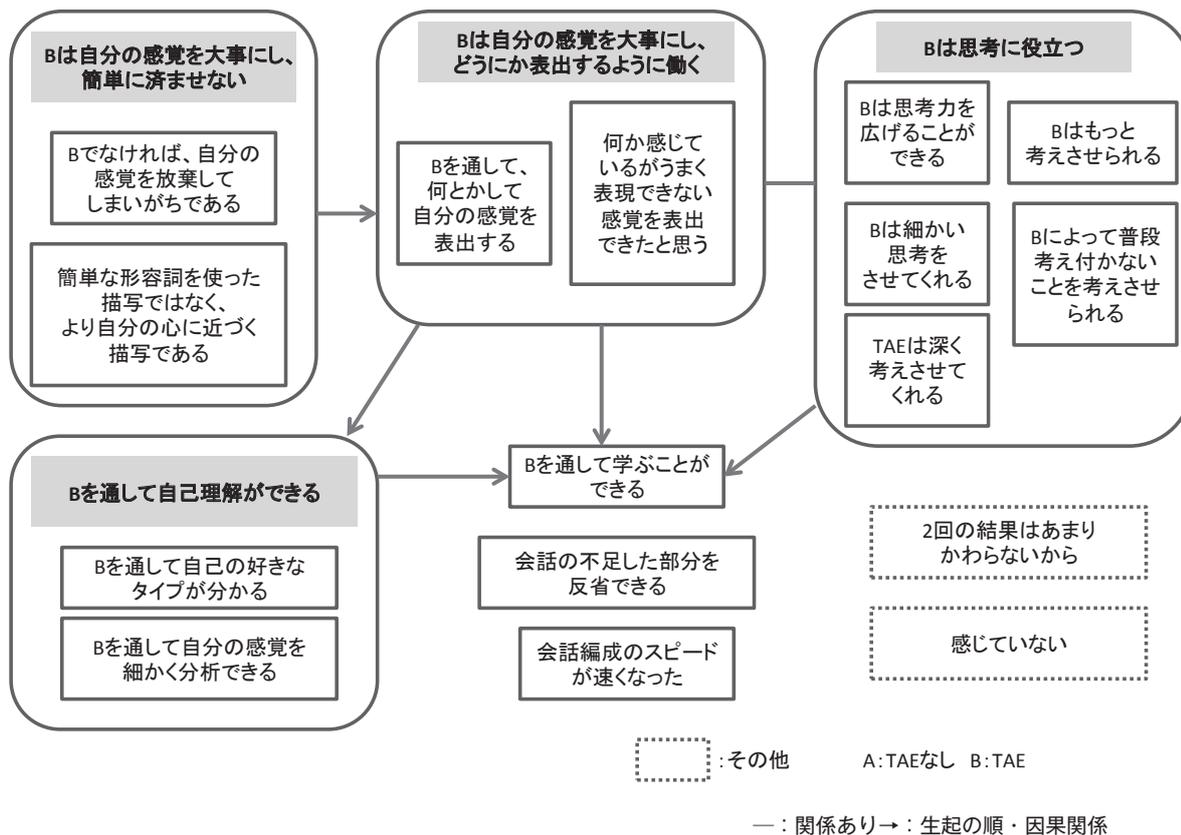


図3 TAEの「恋人に振られた」の活動の内容についての評価 (陳姿菁 2013c)



—: 関係あり →: 生起の順・因果関係 >-<: 互いに反対

図4 TAEの「好きなタイプ」の活動が会話に役に立つかどうかについての評価



5 考察

5.1 肯定的・否定的評価

数値からみると容易性はやや欠けているが、TAEを通して産出した内容の方が良く役に立つと感じており、活動を通して得るものがあつたと評価している。では、次の節で学習者の評価の理由を見てみよう。

5.2 TAE を評価する理由

学習者の理由をKJ法で分析した。紙幅の関係で、ここでは、本研究の「既習語彙をフルに使い、自分の身体が感じている繊細な感じを描写する活動」と

いう趣旨に対して学習者がどのように感じたのか、2つの評価の理由について紹介する。まず、「恋人に振られた」という活動について、TAEの方がいいと感じられた学習者が80%を占めており、その理由は図3の通りである。

「好きなタイプ」の活動では94.4%の学習者はTAEが会話に役に立つと評価しており、その理由は図4の通りである。

2年生の場合、言語の習熟度の不足からTAEという活動に対して困難を感じる声が多いものの、2年生と3年生ともに、TAEを通して産出した内容は自分の心の中に感じているもの、つまり「フェルトセンス」に近く、そして、何とかして表現できた

ことを評価している。また、このような手法による産出は通常の産出より内容的に豊かであるという感想が多く寄せられている。そして、通常であれば感じていたものを単純化したり、放棄したりするかもしれないが、TAEがあれば複雑でも表現しようとする声や、TAEを通して自分の気付いていない感じに気付くなどの声もあった。

ふだんは味気ない返答しか返さない学習者だが、実はいろいろ感じていて、その感じが引き出されることを評価していることが今回の活動と調査を通して^{うかが}うことができた。今日の表層世界に重点を置いて構成された学習内容においては、学習過程において学習者が自身の内的世界に目を向ける機会はおおむね皆無であるといっても過言ではない。別途フォローアップインタビューをとった結果では教科書の内容は自分のものではなく、身につけにくく、TAEのような自分の中から産出したものの方が身につけやすいと高く評価している意見があった。コミュニケーション能力を豊かに育むという点において、学習者の内的世界に潜むミーニングノウズを引き起こす工夫を、今後考慮する必要があると感じた。

おわりに

ヒューマニスティック・サイコロジー (Humanistic Psychology) の学者は学習者の情意面を重視した教育を唱えてきた。本研究はその流れを汲んだ心理学の手法を用い、学習者の語学学習について情意面からアプローチした結果を評価した。ただし、実施するテーマと教科の連携、活動の導入と学習者の活動への理解などまだ残された課題は多い。

注記

- 1) 一部の内容は拙著陳姿菁 (2013a) にまとめてある。
- 2) 「恋人に振られた」という実践活動の詳細は拙稿陳姿菁 (2012)、アンケート調査は陳姿菁 (2013c) を参照。「好きなタイプ」の活動及びアンケート調査は陳姿菁 (2013b) と異なる学年度、異なるクラスでの内容である。
- 3) 「臭豆腐」のような強烈的な匂いをもつ食べ物を食べたときの感じ、得丸 (2008) の「フェルトセンス感度チェックのワーク」の質問 (下記の通り) や比喩ワークなどを使い「フェルトセンス」を掴む練習をした。
 - (1) 人と出会ったとき、その人の名前を知っていることはわかっているのに、名前が出てこなかったことがある。
 - (2) 言おうとして忘れていたことが何だったかを思い出し、すっきりしたと感じたことがある。
- 4) http://www.focusing.org/jp/tae-intro_jp.html (accessed 2012- 8- 27)
- 5)
 1. 同じテーマに対する回答をみて、A のやり方で作った内容のほうがいいですか、それとも B (TAE) のほうがいいですか。それはなぜですか。
 2. 表出する過程を思い出してみ、A のやり方のほうが自分が表現したいものを探しやすいですか、それとも B (TAE) のほうが探しやすいですか。それはなぜですか。
 3. 今後、考え方を求められたら、上述の 2 つの方法の中にどちらの方法を選びますか。それはなぜですか。
 4. もう少し TAE の練習をしてみたいですか。
 5. 表現力は進歩したと思いますか。もしそうであるなら、どんなことでそれを感じましたか。
 6. 1 回目と 2 回目の結果をいくつか実例を挙げて見せる必要がありますか？
- 6)
 1. A (中間テスト) のやりかたと B (後の TAE) のやり方についてどう思いますか。
 2. どちらのやり方が好きですか。なぜですか。
 3. B (TAE) のやり方は会話に役に立ちますか。なぜですか。
 4. 今後、また TAE で会話をしてみたいですか。なぜですか。
 5. 全体的にみると、TAE のやり方で何か得たものがありましたか。もしあれば、説明してください。

参考文献

陳淑娟 (2010a) 「TAE 理論に基づく上級日本語の授業の展開：フェルトセンスで新聞記事からパターンを取り出す実践」『2010 世界日本語教育大会論文集：予稿集 (CD-ROM)』

陳淑娟 (2010b) 「TAE 理論に基づく日本語教育の実践の可能性」2010 年言語・外国語教育研究シンポジウム—スキルとしての外国語教育，輔仁大学，2010 年 11 月 20 日，1-12.

陳姿菁 (2011a) 「TAE 理論の日本語読解授業への応用—抽象思考の練習を中心に—」『日本語日本文学』36，輔仁大学，161-181.

陳姿菁 (2011b) 「表現力の向上を目指す会話授業の試み—『高級日語会話』を例に—」『台湾日本語文学報』30，441-464.

陳姿菁 (2012) 「複雑な気持ちを言語化する会話授業の実践—『恋人に振られた』気持ちを例に—」『台湾日本語文学報』31，273-294.

陳姿菁 (2013a) 『自己表現力を引き出す実践研究—TAE を中心に—』致良出版

陳姿菁 (2013b) 「『好きなタイプ』を語る『高級日語会話』授業の実践—TAE の導入による変化の有無を中心に—」『東吳外語学報』36，1-22.

陳姿菁 (2013c) 「複雑な気持ちを言語化する授業の可能性—『中

級日語会話』の学習者のフィードバックから—」『淡江外語論叢』21，207-227.

徐孟鈴 (2012) 「個人体験と内容の豊かさを重視した口頭発表の指導法—TAE ワークによる会話教育の実践例—」『台湾日語教育学報』19，244-272.

野田尚史 (2012) 「日本語教育に必要なコミュニケーション研究」『日本語教育のためのコミュニケーション研究』1-20. くらじお出版

縫部義憲 (2001a) 『日本語教育学入門 改訂版』渚々社

縫部義憲 (2001b) 「ニューマンスティック・サイコロジーの視点」『日本語教育学を学ぶ人のために』，72-90, 世界思想社

佐藤貴仁 (2010) 「TAE 理論に基づく文章表現指導—身体感覚の言語化—」『2010 世界日本語教育大会論文集：予稿集 (CD-ROM)』

Skehan, P. (1998) *A cognitive approach to language learning*, Oxford, UK: Oxford University Press.

得丸智子 (2008) 『TAE による文章表現ワークブック』図書文化社

宇津木奈美子 (2010) 「『フェルトセンス』の導入—来日した短期留学生の実践から—」『2010 世界日本語教育大会論文集：予稿集 (CD-ROM)』